

マジックナンバーで編む1玉マフラー

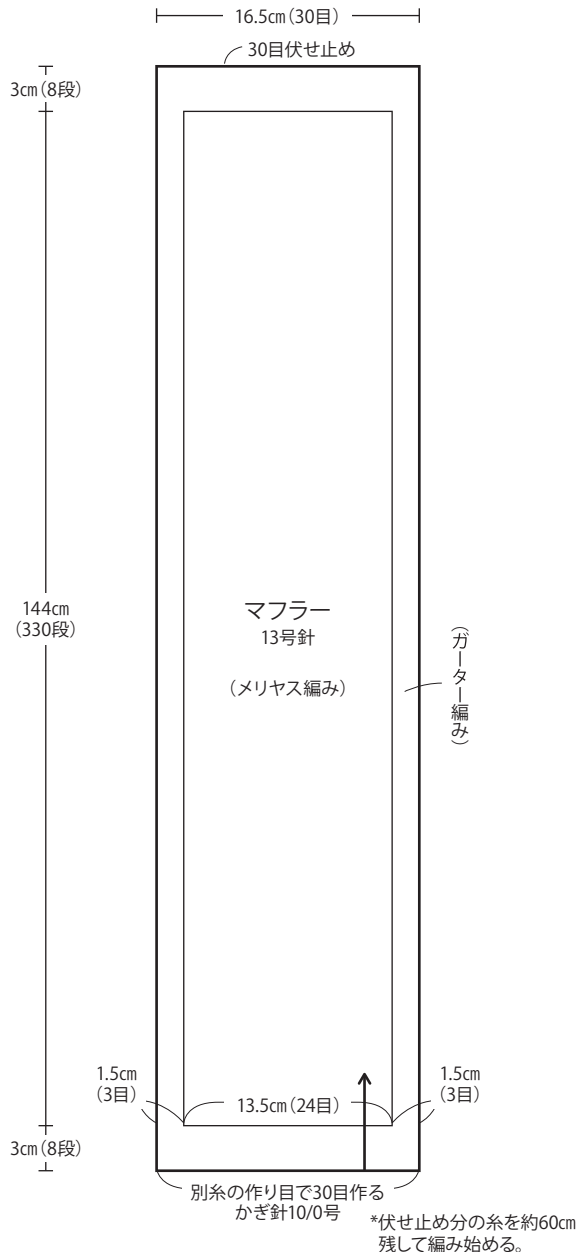


<デザイン> リンダ アレグラ (デザイン・編み図監修) 田畑 真代

<できあがり寸法> (置き寸)
幅: 約16.5cm 長さ: 約150cm

<p><使用毛糸></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>毛糸名</th> <th>色</th> <th>No.</th> <th>g数</th> <th>玉数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マジックナンバー</td> <td>白×グレー×黄</td> <td>61-631</td> <td>98g</td> <td>1玉</td> </tr> </tbody> </table>					毛糸名	色	No.	g数	玉数	マジックナンバー	白×グレー×黄	61-631	98g	1玉	<p><ゲージ> 10cm平方 メリヤス編み: 18目×23段</p>				
毛糸名	色	No.	g数	玉数															
マジックナンバー	白×グレー×黄	61-631	98g	1玉															
<p><使用道具></p> <ul style="list-style-type: none"> クローバー編み針「匠」2本針 13号 クローバーかぎ針 10/0号 とじ針 目数リング 別糸(作り目用) 					<p><編み方></p> <ol style="list-style-type: none"> かぎ針10/0号を使って、別糸でくさり30目作ります。 作り目から「A色9目、B色9目、A色9目、蛍光色2目、A色1目」と30目拾います。これが1段目となります。 図の記号の通りに表目と裏目で『A色(9目)、B色(9目)、A色(9目)、蛍光色(2目)』を守って編んでいきます。 最終段を編み終わったら、編み始めの別糸をほどいて最初に残した糸で伏せ止めをします。 														

- 目数リング**
- ・ガーター編みの目印に
 - ・段の最後の色の変わる場所に入れると、次の段の続きの色の目数がわかりやすいです



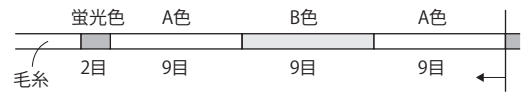
<マジックナンバーについて>

POINT ここがポイント

(1) マジックナンバーの編み方ポイント

この毛糸は色ごとに編む目数が決まっており、その目数を守って編むことで模様ができ上がっていきます。

毛糸は3色構成になっており、下記の目数を意識して編みます。



(2) 目数の合わせ方ポイント

2目を合わせるの比較的簡単ですが、9目を編む場合は、慣れるまでは調整が必要になります。最初のうちは、9目にならなかった時は数目戻って、合わせるようにすることをおすすめします。手の強さは編む人によってそれぞれなので、針の号数や糸の引き具合で調整してください。半目ぐらいが隣の色になっても模様全体にはあまり影響しません。

(3) 糸に結び目や細い部分があった時

●結び目があった場合

① 結び目のところでカットする。



② 色の順番をたしかめて、順番通りになるところで糸をつなぐときの要領で新しい糸をつけて編んでいく。

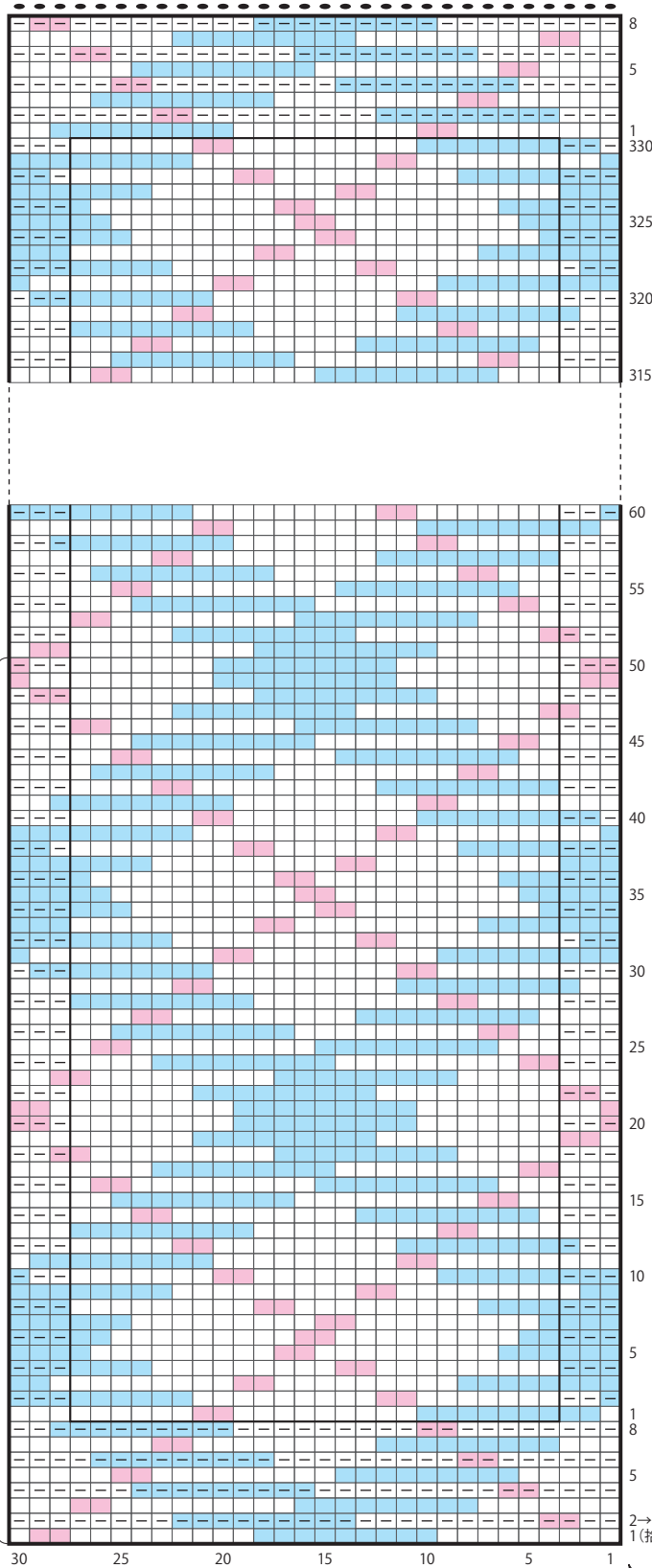


●細い部分があった場合

細い部分が2cm前後でしたらカットせずそのまま編み進めて大丈夫です

※ 気になるようでしたら「●結び目があった場合」と同様に、カットして糸をつなぎ、糸始末をして下さい。

マフラーの編み方



<マジックナンバーの特徴>

Checkedred チェック柄

この毛糸は1模様が
A色(9目)、B色(9目)、A色(9目)、蛍光色(2目)の計29目になります。
この模様は1段ごとに1目ずつずらして編んでいくことで模様が斜めにずれていきチェック柄が浮かび上がります。
※ 1目ずらせるために、1模様の目数に「1目」を足した数が作り目数となります。

<編み目記号>

棒針編み

- = □ 表目 □ = A色
- = 裏目 □ = B色
- = 伏せ止め □ = 蛍光色

* 糸の編み始め位置 *

